

2019 年度大学院入学式:学長祝辞

本日より、日本体育大学大学院において、さらなる学問の追究を目指し、それぞれの専門分野で、新たな一步を踏み出す皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。また、これまで皆さんを支えてこられた、ご家族の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

本学は 1891 年、その母胎である「体育会」の創設に際し、『體育富強之基』(「体育は、富国強兵の基本である」)を建学の精神に掲げ、いまではこれに、「真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である」、との現代的解釈が加えられています。

現在、日本体育大学大学院は、体育科学研究科、教育学研究科、保健医療学研究科の 3 研究科 4 専攻をもって構成され、いずれにも外国人留学生や社会人学生など、多様なバックボーンを持つ皆さんが集い、さまざまな相乗効果が生み出されることを期待するものです。

現在、本学は、その建学の精神を具現化すべく、すなわち、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」に向けて、さまざまな取り組みを積極的に展開しているところです。

とりわけ、大学院課程には、本学の研究分野において、中核的・先導的役割を担い、体育スポーツ学、教育学、保健医療学の各分野で世界をリードしていくことが強く求められています。

例えば、そのミッションにはまず、「体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における先駆的・実践的研究を推進し、人間の『活力ある身体』について、その真理を探究する」ことが掲げられ、あらゆる研究は直接間接に関わらず、「スポーツ文化の深化・発展に努め、オリンピック・パラリンピックムーブメントの精神を実践・推進し、スポーツが有する様々な『力』を活用して、国際平和の実現に寄与する」ことを期待されます。

さらに、「真摯な基礎研究と課題解決に向けた実践的研究を高い水準で展開し、各専門分野の連携を図りながら、学際的研究に取り組むとともに、その成果を広く社会に発信し、とりわけ、体育・身体活動・スポーツの実践から生じる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学の諸分野から総合的に分析・検討を加え、得られた新たな知見や解決方法を実践現場に還元する双方向的研究活動を推進する」旨、具体的な研究の在り方がビジョンとして示されています。

いずれの研究科・専攻をそれぞれ眺め返してみても、そこには必ず、現場での「実践」に基づき、それを意識した「理論」の修得が強く求められていることがわかります。そして、新たに得られた知見を、再び体育スポーツや教育、医療の現場に有効に活かしていこうとする、双方向、「実践と理論の一体化」の試みこそが、本学の研究活動の中心であることを再認識させられます。

将来、研究者・高度専門職業人を目指す皆さんには、こうした本学の社会的使命と研究目標、さらには大学院が果たすべき役割を理解して戴き、自身がどんな立場で社会を先導するのか、あるいはすべきか、その指針を立てて励むことが要請されています。

それぞれの研究領域・分野において、真摯に研鑽を積み重ねていって欲しいと強く願います。

本日は、本当におめでとうございます。皆さんのこれからを大いに期待しています。

2019 年 4 月 3 日

日本体育大学 学長 具志堅 幸司